

# やまみち

…仮設支援情報…



第51号 発行日 98.5.22

## 被災地NGO協働センター

〒651-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6

TEL:078-685-0068 / FAX:078-685-0071

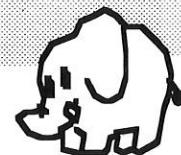
E-mail:SHB00846@niftyserve.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

気がつけば、5月も半ば。事務所の裏の路地を歩いていたら、軒先の紫陽花が薄紅色の花を咲かせていました。五月晴れの空のもと、うつろいゆく季節の予感です。



## 一本のタオルから まけないぞうへ



### 「一本のタオル」から

毎日お屋前に、郵便屋さんと宅配便やさんが事務所にやってきます。ドサドサッと運び込まれる段ボールの中身は、全国から寄せられたタオル達です。多い日には玄関がふさがってしまうくらい。大きな箱から、パンパンに膨らんだ封筒にタオルを詰めて下さったものまで、いろんな形でタオルが届きます。

先日ちょっと調べてみたら、北海道から九州まで、全国の各都道府県みんなからタオルが来ているがわかりました。4月の時点で届いたタオルの総数は約30,000本。個人や家族で寄せて下さる方もあれば、学校や企業、町ぐるみでタオルを集めて下さった所など様々です。

寄せられたタオルは仕分けをして、「まけないぞう」の作り手の方に届けられます。

「自分で作っているうちに、だんだん鼻ができ、顔ができ、目とそなさんの形になっていく。楽しくやっています。これをみんなで輪を広げられたらなぁ……と、私たちも『負けずにがんばるぞう』と自分の作ったそなさんに話しかけながら作ってあります」

(神戸市内の仮設住宅の作り手のお話から)

「震災に会われ、苦労をされている方々についてはTV、新聞などで知ってはいました。しかし、毎日の生活や子どもたちの世話をあわれ、何一つできない自分がいた。思い切って押入をかたづけタオルを集めました。少しごすが、役に立てただければ幸いです。」

(福島県から寄せられたお便りから)

### 「まけないぞう」へ

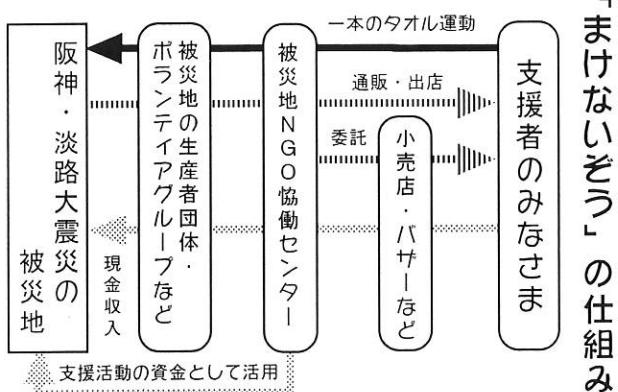
「まけないぞう」の作り手は、現在約50人。製作は、仮設住宅や災害復興公営住宅で暮らしている方、震災で大きな打撃を受けた長田区のケミカルシユーズ業界の縫製場で働く人たちが担っています。

現在多い人で月に7万円、平均で月に3~5万円の収益になっています。まだまだ内職の域を越えるには至っていませんが、「生きがい」を見い出す役割は少しずつ果たしていくくらいに成長したかな、なんて思っています。

出来上がった「まけないぞう」は、回収され、今度は全国の支援者のもとへ届けられます。現在までに出荷したぞうさんは約24,000本。こちらの方も、タオル同様、北海道から九州まで全国全ての都道府県に旅立っています。中には海を越えて、アジアやヨーロッパへ渡つていったぞうさんもいます。

被災地の活動の中から生まれた「一本のタオル」と「まけないぞう」。「小さな心」と「小さな愛」のキヤツチボールをしている気がします。

これからもよろしくお願ひします。



....仮設支援情報....

# 震災から生まれた配食サービス

～「ゆいまーる神戸」の活動から～



先月の「じゅりみち」で、配食サービスを行っているグループへのお米の提供を呼びかけました。一ヶ月の間に約100キロほどのお米をお寄せ頂き、今月半ばに、東灘区の浜公園仮設と、須磨区で活動を続けるボランティアグループ「ゆいまーる神戸」にお届けしてきました。

5月13日水曜日、「ゆいまーる神戸」にお米を届けに行きました。行つた先は須磨区のニュータウンの中の仮設住宅。「ゆいまーる」はこの敷地内のプレハブの一角で、配食サービスの準備をしています。毎週一回、昼食を手作り弁当で配達しているのです。

「ゆいまーる」ではこれまで、仮設住宅での茶話会や移送サービスを中心とした活動を行ってきました。配食サービスは昨年秋にスタートして半年余り。「宣伝もしていないのに口コミで利用者が広がっています」とは代表の石井明美さん。9人を対象に始まつたこのサービスも、現在では須磨区・西区の仮設内外の30余名の方が利用しています。

高齢者や障害者は、買い物に出るのも一苦労です。インスタント食品や残り物の食材で生活をつなぐ人たちも少なくありません。そんな中、手作りで、栄養のバランスが考慮され、温かいうちに届けられる弁当は、週一回ながらもサービスを受けている方々にはとても心待ちにされています。

配食に携わっているスタッフは8名ほど。前日に準備した食材を持ち寄り、朝の9時から調理開始。この日のメニューは、サバの塩焼き・エビチリ・筑前煮・豆苗ゴマ和え・たくあん、ごはんと味噌汁にデザートのバナナ。30食余りの弁当が出来上がるまで、2時間以上かかることもあります。

全ての弁当の準備が終わった11時過ぎ、3台の車に分乗して配達開始。車は全てメンバーの自家用車で、バイクで配達に向かうこともあるそうです。

最初に向かつた仮設では、住民がふれあいセ

ンターに集まつて、弁当が届くのを待つていました。ワイワイガヤガヤ、弁当そのものはもちろん、弁当をダシにお喋りを楽しんでいるといった感じで、とっても賑やかな一時です。

続いて伺つたのはニュータウンの中の公営住宅。石井さんは「仮設だけでなく、最近は地域の方からの申込みも多いんですよ」と言います。実際この日も公営住宅の利用者の一人から、新たに知人がサービスを利用したいという申し出を受けました。

昼食をはさんで、弁当を配り終えたのは午後2時過ぎ。配達先で話し込んでしまつたため、時間も長くかかってしまいます。「こんなにちは～」

「どうも～」から始まる会話は、世間話から身の回りの心配事、体の調子、先々の不安まで様々です。相談事を持ちかけられることも多く、会話の中で、次から次へと被災者のニーズが掘り起こされていきます。

仮設住民が減つても、地域全体の中での高齢者の割合が減るわけではありません。むしろこれから高齢化社会の中では、地域の中で高齢者・障害者を支えていく仕組みを考えいかねばなりません。

現在、一食450円(配達料込)の利用者負担で行われているサービスも、台所事情は決して楽ではありません。今年の春は野菜が高値で食材の入手には苦労が続きました。安定した財源の確保は活動を継続する上でも大きな悩みです。

「ゆいまーる神戸」では、この5月、須磨区内に、本格的な調理設備を備えた新しい事務所を構えました。現在週一回の配食を、早いうちには週二回に、ゆくゆくは週三回まで増やしていくたいというのがメンバーの願いです。

震災救援から地域福祉の担い手に～小さな市民活動の大きな挑戦が続きます。

(被災地NGO協働センター 福田和昭)



被災地NGO協働センターでは、配食サービスを利用する食材(お米・イモ類など日持ちのするものに限ります)を募集しています。お寄せ頂いた食材は、被災地内の配食サービスで活用させて頂きます。

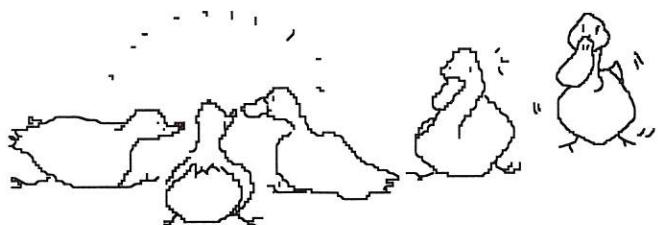
被災地NGO協働センター：〒650-0044 神戸市中央区東川崎町7-2-6 TEL 078-685-0068 (村井・福田)

## 《仮設は今。。。》

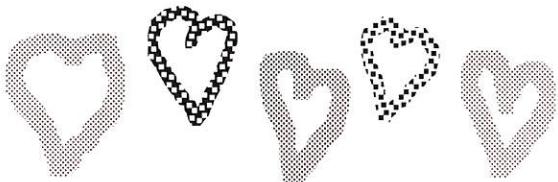
須磨区南落合仮設で支援活動を始めて3年になります。この仮設は場所的に便利な所にあるせいもあり、恒久住宅へ移られる住民は他の仮設と比較するとまだ多くはありません。それでも最初は72世帯あった仮設も今では50世帯余りになり、仮説に残っている住民にとり、将来の不安は隠せないようです。

私たちは第一、第四日曜日にここで「ふれあい喫茶」としてモーニングサービスをしています。一回に30人~40人の参加者があります。仮設に閉じこもりがちになる、特に一人暮らしの高齢者にとり、この「ふれあい喫茶」は同じ立場で、気の知れた同士が集まり、話ができる場として、仮設住民の心の支えになって来ています。その証拠に、最近この仮設から復興住宅に移られた方がふれあい喫茶に来られ「引っ越しして一ヶ月になるけど、隣に誰が住んでるかもわかりません。ベランダから洗濯物が見えるから、誰か住んでいるんでしょうね」と……。一人っかりで淋しいですよ。ここに来ると本当に安心します」と言っていたのを思い出します。また、「自分の家ができ引っ越ししなければいけないんですが、引っ越しすると一人になってしまってしょ。いろいろと不安で仮設を離れられないんです」というお年寄りもいます。仮設にいくと話題は引っ越しの話で一杯です。でもその陰には将来の不安を隠しきれない様々な会話が聞こえます。

阪神・淡路大震災が起つた当時、私たちは被災者も、行政も、ボランティアもその限界を越えて、一人の人間として救援活動に飛び込みました。そして「人は一人では生きていけない」事を改めて知り、お互いに助け合い、支えあって生きていくことの大切さを実感し、これこそが人間の



## 須磨区編



真の姿だと感激し、この素晴らしい体験をどうにかして全国に伝えたいと、いろいろなグループが、いろいろな方法で、いろいろなことをしてきました。また支援活動から見えてきた数々の問題に対し、それぞれに対応してきました。震災ボランティアだけではなく、多くの市民グループも「より良い町づくり」を目指し、声を上げて来ています。

3年間仮設支援をして来て見えて来たもの、それは日本が抱えている問題であり、それがこの震災を通して凝縮され浮かび上がり、その解決策を待っています。人間一人で出来ることは小さい事でも、みんなが同じ方向に進めば、歩いてきた道ははっきりと跡を残します。もし私たちが一人一人の心の中に、この震災で生まれた、人間が本来あるべき姿、真の価値観を解つてもらい、またその人が今度は自分の周りの人にそのことを伝えるなら、時間はかかるけど、私たちが目指す「ここにある豊かな町づくり」を展開していくことが可能であり、かつ21世紀に向かって必要であることだと思います。

今入っている仮設は、最後の一人が恒久住宅に移られるまで支援を続けて行くつもりです。でも全員が自立されたからと言って、ここでの問題が解決される訳ではありませんし、私たちボランティアの仕事が終れる訳でもありません。今後はボランティア同士がよりいつそう強い団結、連帯の元に、これらの様々な問題に取り組んでいく時だと思います。「世界を変えよ」と言う本の中にこんな言葉がありました。「もし一つの人生を変えたら、世界の一部を変えたことになる。これは世界全体も変わる望みがあることを証明している!」 地味ではあるが続けることに意味あり。これからも自分の出来ることを無理なく続けていきたいと思います。よりよい社会づくりのために! 「がんばる!」

(ファミリー神戸 内田善恵)



未使用

テレフォンカードく・だ・さ・い

## ...仮設支援情報...

先週の日曜日に訪れた埋め立て地の仮設で、自治会の方がこんなお話をしました。「以前の孤独死は、ふれあいセンターに顔を出さん人が亡くなつた。最近は顔見知りの人が死んでいく。こないだも、ふれあいセンターに来た人が、その数日後や、亡くなりはつて。今思えばあれがサインやつたんやな。えらい落ち込んでなあ……」

先月末に朝日新聞に掲載された記事を、紹介したいと思います。

1998年(平成10年)4月28日 火曜日

13版△

社会 30

神戸市長田区の仮設住宅に住む男性<sup>夫</sup>は、同じ仮設に住む高齢者の家を朝と夕、一軒ずつ回って戸をたたく。声をかけ健康状態をチェックすると、ノートに○△×の印をつける。毎日百軒以上を回る。

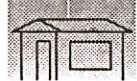
男性は震災で妻を、さらに震災後母親を病氣で亡くなった。ここでは、月に一人のペースでお年寄りが亡くなっていく。その姿が自分が母親とダブつて、放つておけなくなつた

しかし、その男性が一度だけ、相手に「死ねや」と言つたことがある。昨年五月の朝、部屋で寝ていると、六十七歳の女性が突然入ってきた。

「どうしたんだや」「もう死ねわ。見届けてくれる?」「そんなら、死ねや」「うん」

その日の晩、近くのスパーから帰ると民生委員が

## 仮設で死ぬ といふこと



たのは、それが一番優しい言葉やろと思ったからなんや……」

四年目を迎えた仮設を、この男性は「絶望、やけくそ」と表現する。「三年もめ入院した女性(元)を見舞

男性を捜していた。女性のかぎが開かないといふ。ガラスを破つて入る女性は台所で死んでいた。カミソリで手首と首を切つていた。

女性は夫と一人で仮設に入居した。翌春、夫ががんで死亡。そのころから、男性と顔を合わせたびに、「死にたい」というようになった。男性は「何いようと死にたい」と励まし続けた。

一年が過ぎた。女性は持病のパーキンソン病で入院した。男性は手紙を受け取った。震える文字で、「生きにくくということは、本当に大変なことですね」「この先、生きていて何かいいことあるんでしようか」とあった。

## 持ちこたえられず崩れた

### 5 絶ち切る

手紙の言葉が、男性にはこたえた。「生きとつたらいいことあるって言いたいよ。でも一年以上言い続けて、これ以上言つたらうそになる」「死ねやつて言つ



## 「死ねや」一番優しい言葉

復興住宅への移転が進み、仮設住宅には空き家が目立つ。残された人の家のあかりが、まばらにともる。神戸市西区で

二月十四日、マンションが立ち並ぶ神戸市西区の二ユータンはすれにある仮設住宅で、七十三歳の女性が死んで首をつっているのが発見された。たまたま三日前とみられる。

同じ西区に住むおい(音)さんは、「死を感知させるものはなかつた」という。がかけつけた。叔母の部屋には、「死」を感じさせるものはなかつたといふ。

阪神大震災の被災地にあら復興住宅で自殺したのには、三十五歳から七十四歳まで十七人。今年もすでに四人が、自ら命を絶っている。二十二日には、仮設から復興住宅に引っ越し始めたばかりの八十一歳の男性が、九階の自室から飛び降りて、自殺した。

三年間持ちこたえてきたものが、崩れていく。

『この連載は、稻垣えみ子、森高久馬(以上社会部)、今林弘(神戸支局)、後藤正(写真部)が担当しました』

衣装ケースの中には、新品の下着が二十着。台所の冷蔵庫を開けると、六個入り・トペーパーが積んである。衣装ケースの中には、新品の下着が二十着。台所の冷蔵庫を開けると、六個入り・トペーパーが積んである。

「死ねや」とあつた。翌朝料理をする準備のようになつた。翌朝料理をする準備のようになつた。

兵庫区の文化住宅が全壊し、女性は仮設に入った。兵庫区に応募を繰り返したが、はずれ続けた。

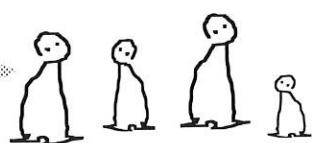
二月三日、女性はおいで、電話で「行政の人が来て、つちでもええねん。失敗して死んでも、もう年やしえないなんて言うとつたらあかん言うねん」と不満をもらしている。「年寄りは死ね、いことなんかなあ」とも言つた。

二月三日、女性はおいで、電話で「行政の人が来て、つちでもええねん。失敗して死んでも、もう年やしえないなんて言うとつたらあかん言うねん」と不満をもらっている。「年寄りは死ね、いことなんかなあ」とも言つた。

## ....仮設支援情報....



## 公的支援を考える



衆議院災害対策特別委員会は14日、与党6党が共同提案をした「被災者生活再建支援法案」を審議し、可決された。これによって今後起こりうる災害に対して適用をしていく方針だ。しかし、この法案の内容は、「市民＝議員立法案」はあつたが、この法案の原案となつた全国知事会案よりもさらに後退している。「生活再建にはほど遠い」という声が聞こえるほど、この法案は被災地からの発信には何一つ答えていない。

確かにこの国で、初めての「公的援助」が認められたことは大きな一步を踏むことになる。しかし、その中身については皆さんもよく考えさせていただきたい。全壊世帯のみに給付され、それ以外の半壊、一部損壊はあつた、店舗の全壊も対象外となつてあり、また失業者対策も盛り込まれていない。今後どこかで大きな災害が起きたときではもう遅いのだ。

給付額を説明すると次のようになる。～被災前年の世帯収入や、世帯主の年齢によって区分される。家屋の全壊世帯(解体した半壊世帯、長期避難による使用不能を

含む)を対象に、年間収入が500万円以下は最高100万円。500万円を超える800万円以下の世帯は最高50万円～など。また800万円を超える世帯は対象外。財源には都道府県が設立する基金の運用益を充て、支給額の半分を国が負担する。また、対象となる自然災害の規模は全壊100戸以上、市町村で全壊10戸以上となる見通し。

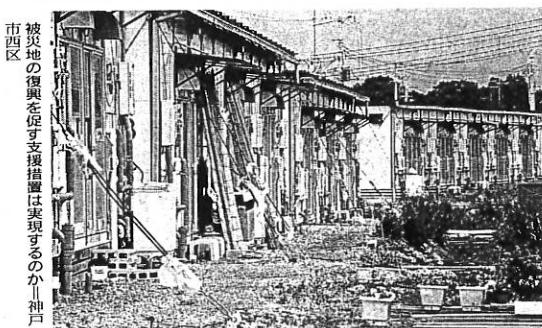
この金額を見ていだいて分かるように、この支援策がどこまで市民のためのものになるのかは一目瞭然である。今被災地では、二重、三重のローンを抱えている人も少なくない。このような人達にとって、この支援策が有効と言えるのであつた。

この法律を、より市民のためのものとして位置づけられるように、これから展開が重要になるであつた。それは、被災地に住む人間の為だけでなく、私たち市民のためである。

(被災地NGO協働センター 鈴木隆太)

(1998年5月15日  
神戸新聞朝刊)

## 暮らし復興ほど遠く



被災地の復興を促す支援措置は実現するのか—神戸市西区

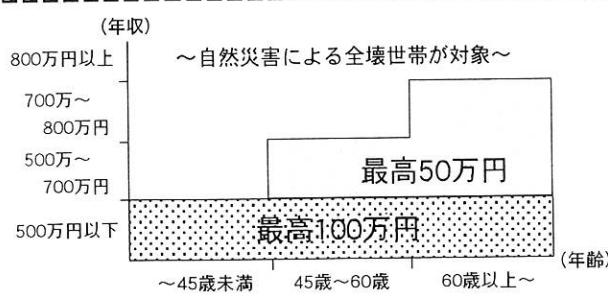
に支給が始まった生活再建支援金と中高年自立支援金の支給額を差引くとの見通しに、被災者は「怒るより、あきれた」。あきらめ「でも悪い」「この程度で復興が進むとは思えない」との声が上がる。

災害用の公営賃貸住宅。職の男性(年30歳)はすでに月一万五千円の生活再建支援金を支給されている。年金生活者は年金生活費で復興が進むとは思えない」との声が上がる。

扶助がどうなるかは、いまだに不透明なままだ。

## 怒り半ばあきらめ 給付分減額？措置なお不透明

## 生活再建支援法案による被災者への支援金額と対象



※半壊・一部損壊、店舗などの全半壊・一部損壊は支援の対象外。  
※年収800万円以下の要援護世帯には世帯主の年齢に関わらず支援金を支給。

働き盛りで公的支援を期待していた。「先が見えず、とても不安。切りつけた生活を強制したいが、売れそうに売れない。法案に期待しただけだ」と嘆く。マンションも売却されてしまつた。今月から中高年女性(年30歳)は、仮設住宅が当選せず、民間の賃貸住宅もなく、仕方なくマンショングループを購入した。しかし、(支給は引かれてしまう)しておらず、「本当に(支給は引かれてしまう)」と話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ないと話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ない。同市兵庫区に完成した被

りがたが増へ」とも。周辺は地域が自立。「家が建つ痛みに伴うには、(支給は引かれてしまう)」と話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ないと話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ない。同市兵庫区に完成した被

りがたが増へ」とも。周辺は地域が自立。「家が建つ痛みに伴うには、(支給は引かれてしまう)」と話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ないと話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ない。同市兵庫区に完成した被

りがたが増へ」とも。周辺は地域が自立。「家が建つ痛みに伴うには、(支給は引かれてしまう)」と話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ないと話す。震災で家も店舗も焼けた。借金を重ねて店舗を再建するが少ない。同市兵庫区に完成した被

…仮設支援情報…

# 震災がつなぐ全国ネットワーク



阪神・淡路大震災の発生から3年4ヶ月。震災を機に注目を集めたボランティア活動も、被災地内外で様々な拡がりを見てきました。同時に震災での経験や、各々のグループの特徴を活かした活動を探つていこう。

そんな想いから昨年11月、全国10数団体が集まって「震災がつなぐ全国ネットワーク」を旗揚げしました。

この全国ネットワークの主催で、5月末に、名古屋でシンポジウムを開催します。テーマは「阪神・淡路大震災の復興からまちづくりを学ぶ」みなさまぜひご参加下さい。

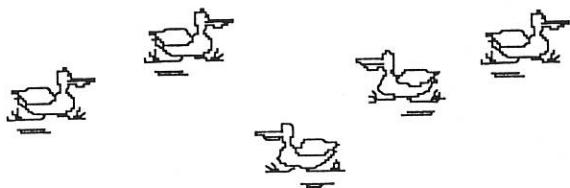
## シンポジウム

### 「阪神・淡路大震災の復興からまちづくりを学ぶ」

～被災地内外の3つの事例より～  
開催のご案内

阪神・淡路大震災から3年4ヶ月が経過した。インフラの復旧がおおむね完了し、一見被災地は着実に復興を遂げているかに見える。しかし、人々の暮らしの復興はどうであろうか。今もなお18,000世帯が仮設住宅で生活し、孤独死は200人を数えるなど、問題は深刻化、長期化している。

そこで今回はそれらの苦悩を単に羅列するだけではなく、その現実から仮設や恒久住宅でコミュニティづくりに奔走している取り組みや、市民が復興計画案を策定し、自らがまちづくりに取り組むなどの現場に密着した事例を取り上げ、どのように展開しているのかを語ってもらいます。



日時：1998年5月31日（日）13:00～16:00

場所：名古屋市教育センターハンターハンター（教育館）講堂

（地下鉄東山線・名城線「栄」駅下車2・3・10B出口すぐ）

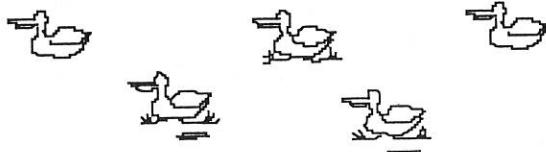
参加費：1,000円（資料代など）

主催：震災から学ぶボランティアネットの会・震災がつなぐ全国ネットワーク・地域問題研究所・NPOセミナー・まちづくり交流フォーラム

問合せ・申込み：

震災から学ぶボランティアネットの会

tel&fax：052-413-6304



一方、阪神・淡路大震災は、市民等によるボランティアな活動を萌芽させ、これまでの経済至上の考え方から、ここ3の豊かさを優先させるといふべきパラダイムチェンジとなつた。そこで、この変化をいち早くキャッチし、ボランティアセンターの役割を担おうとしている栃木の取り組みから、震災から何を学び、自らのまちづくりにどう生きようとしているのかを語ってもらいます。

震災から学んだこれらの事例から、私たちが目指すべき「まちづくり」のヒントを得る機会にしたいと思います。参加資格は特にありません。どなたでもお気軽にご参加下さい。

## お知らせ

「震災がつなぐ全国ネットワーク」の第2回会議を5月30日（土）～31日（日）の日程で行います。場所は名古屋市内の同朋大学知文会館です。

資料請求・参加申込は左記の「震災から学ぶボランティアネットの会」までお願いします。

## ....仮設支援情報....

## 仮設入居2万世帯切る

～恒久住宅へ移行本格化 ピーク時の4割に～

兵庫県関係の仮設住宅の入居契約数が、5月1日現在で2万世帯を割り、計18,161世帯になったことが13日、県の入居状況まとめで分かった。仮設住宅からはこれまで毎月、約1,000世帯前後が退去するペースだつたが、今春以降、公営住宅など恒久住宅への移行が本格化しており、今回は前月よりマイナス3,310世帯の大幅減となつた。ピーク時に比べ39%の契約数となる。

最多の仮設住宅が残る神戸市は、13,086世帯(前月比1,848世帯減)が契約している。次いで西宮市が2,373世帯(同523世帯減)、尼崎市820世帯(同230世帯減)、芦屋市513世帯(同445世帯減)など。県内被災地合計では、17,270世帯(同3,154世帯減)だつた。ま

た被災地外では、加古川市や姫路市、大阪府内など計891世帯(同156世帯減)で、1,000世帯を割り込んだ。

仮設住宅は震災直後から、14市11町と大阪府内に48,300戸が建設された。現在、県内では11市5町で契約世帯が残っている。ピークは1995年11月で、46,617世帯が入居。その後は96年10月に4万台を切り、昨年7月には3万台を割つた。

兵庫県は9月末までの仮設住宅解消を目指しており、被災者が希望公営住宅がない場合は、空きのある公営住宅への暫定入居などを勧めている。

(1998年5月13日 神戸新聞夕刊)

毎月12日か13日頃、被災地の新聞にはその月の1日現在の仮設住宅の入居契約数が発表される。たいてい地域面の小さな記事のことが多いが、今月のように節目の数字を越える月は、ひよいと大きな扱いを受けたりする。被災地の様子が少しでも伝わればと、「じゅりみち」で紹介したりもする。

最近、たまに紙面に顔を出す気になる記事がある。復興住宅での孤独死の記事だ。今年度に入つて既に2~3件、記事を見かけた記憶がある。

仮設住宅を後にして、そこがくらし再建のゴー

ル、というわけではない。一から始める新居での近所付き合い、新しい街での買い物、通院……と、激変する環境の中で、多くの課題を抱えての新しいくらしのスタートなのだ。

プレハブ長屋から鉄の扉のコンクリート住宅への移行は、個別の被災者の姿が見えにくくなることもある。仮設が減つたからといって、仮設から見えてきた問題が解消されたわけではない。

震災から3年4ヶ月。被災地は4度目の初夏を迎えている。

(ふくだ)

イベント情報  
EVENT information

## 第5回 フェスタ in 湊川

障害者や高齢者との出会いの場をつくり、子どもからお年寄りまで、皆が楽しくすごせる、市民参加の「フェスタin湊川」を開催します。そしてひろく市民の皆様に障害者や高齢者などを知つていただく機会とします。

- ・障害者共同作業所等出店
- ・フリーマーケット
- ・ステージ企画など

日時：1998年5月24日(日)

11:00~16:00

雨天の場合は5月31日(日)

場所：神戸市兵庫区・湊川公園

神鉄「湊川駅」・市営地下鉄「湊川公園駅」下車すぐ  
問い合わせ：

「フェスタin湊川」実行委員会

TEL : 010-079-5104(児玉)

FAX : 078-576-6691



## センターの動き 5月

- |               |   |
|---------------|---|
| 4/29(水)       | 通院介護(神戸・朝日病院)                                       |
| 4/30(木)       | センター会議  |
| 5/ 1(金)       | 北朝鮮支援実行委員会  |
| 5/ 4(月)       | 通院介護(神戸・朝日病院)                                       |
| 5/ 8(金)       | 被災障害者なんでも相談総括会議(神戸・コミュニティ基金)                        |
| 5/ 9(土)       | こうべ地球村フェスティバル/ぞう販売(神戸・三宮)<br>高石ともやコンサート/ぞう販売(神戸・東灘) |
| 5/10(日)~11(月) | 村井くん東京出張  |
| 5/12(火)       | 市民活動広場NPO相談会(神戸・フェニックスフ'ラサ')                        |
| 5/14(木)       | センター会議  |
| 5/19(火)       | 市民活動広場NPO相談会(神戸・フェニックスフ'ラサ')                        |
| 5/20(水)       | センター会議  |
| 5/21(木)       | 就学旅行研修受け入れ(井の口小学校・高知県)                              |
| 5/22(金)       | じゅりみち51号発行<br>NPO法徹底勉強会                             |
| 5/24(日)       | フェスタin湊川/ぞう販売(神戸・湊川公園)                              |
| 4/25(月)       | サロン・ド・NGO(地元NGO)                                    |
| 5/27(水)       | センター会議  |
| 5/28(木)       | センター会議/総会   |
| 5/29(金)       | 北朝鮮支援実行委員会  |
| 5/30(土)~31(日) | 震災がつなぐ全国ネットワーク会議(名古屋)                               |

# どう 通信。

発行所：神戸市中央区東川崎町7-2-6〒650-0044  
被災地NGO協働センター

第4号 1998.5.22



♥ふれんどしつぶ・たおる  
実行委員会♥

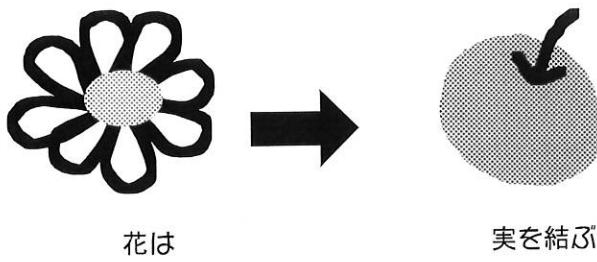
『たくさんの人からの「エール」  
をうけとってください』

「まけないぞう」作り、ごくろうさまで  
す。「まけないぞう」にはいろいろな顔  
の表情があつて、なんだか作っている方  
や、様子などがあたまの中に浮かんでく  
るようです。たくさんの願い、思が  
「まけないぞう」の中に込められている  
んですね。これからもお体に気をつけ  
て、心温まるぞうさんを作つて下さい。  
／私が中学校2年の時、震災が起きました。  
その時の私には、とても遠い場所で  
起こつた出来事でしかありませんでした。  
中学校の先生が「みんなにできるこ  
とは協力しましょう」といつていたけれ  
ど、私に何ができるのかわからないま  
ま、3年が過ぎ、私は高校3年生になりました。  
私の中で消えかけていた『震災』  
とつながりを持てる日がきました。今まで、  
自分に何ができるのかわかりません  
でしたが、神戸に住む人が必要としている  
物で協力ができるなんて、どんなにう  
れしいことでしょう。それから「ふれん  
どしつぶ・たおる」実行委員会を結成し  
て、たくさんの人々に「タオルとメッセージ  
集め」を呼びかけました。それと同時に「今  
の神戸」を知つてもらえてとても  
よかつたと思います。

♥おかげさまで第4号！！♥

「まけないぞう」「一本のタオル運動」への応援文  
集が届けられました！！スタッフ一同大感激です♥  
さっそく作り手さんに見てもらいます。きっと喜ば  
れることでしょう。こんなに大勢の方が応援してくれ  
ているんですね。とっても心強いです。

今回はメッセージ特集。あたたかいメッセージを  
いつもありがとうございます。そしてこれからもヨ  
ロシク…♥



応  
援  
メ  
ッ  
セ  
ー  
ジ  
集  
あ  
り  
が  
と  
ろ  
！

♥新松戸南小学校4年3組のみなさん♥  
『こうべの人へ』

「まけないぞう」はゆう氣があるぞう。こうべの  
みなさん負けずにがんばれ。／ぼくたちがあつめ  
たタオルでつくつてください。／タオルでかわい  
いぞうをいっぱい作つて、がんばつてください。

♥新松戸南小学校4年4組のみなさん♥  
『まけないぞうを作つているみなさんへ』

学級で、タオルをあつめて、おくりました。ま  
けないぞうをいっぱいつくつてください。／わ  
たしが「まけないぞう」を知つたのは、先生が  
ニュース44で話したからです。それで先生がお  
たん生日がきた子に、その「まけないぞう」を  
あげることにして、わたしたちに少しでも、で  
きることがあつたらとみんなからタオルを集め  
ることになりました。これからも「まけないぞ  
う」を作つてがんばつてください。

たくさんの「まけないぞう」が全国  
の町に現れ、身近に手に入ることを  
心から楽しみにし、こころから御健  
勝をお祈り申し上げます。

